１　ＥＳＤの視点に立った学習指導
～白方小学校のＥＳＤ～

①　ＥＳＤの背景

大量生産、大量消費、大量廃棄型の経済成長と人口増加に伴い、地球上では、気候変動が進み、これに伴う洪水や干ばつ、生物多様性の喪失、資源の枯渇、食料生産への影響、貧困の格差等が進んでいます。世界の平均気温は、今世紀末までの間に現在より４．８度上昇するとの予測が出されるなど、状況はさらに緊急性を帯びており、我々が豊かな地球の資源を将来の世代にまで残すためには、持続可能な社会の実現に向け、直ちに一人一人が自らの行動を変革し、これらの課題に取り組むことが求められます。（日本ユネスコ国内委員会小委員会ＥＳＤ特別分科会「持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）の更なる推進に向けて」２０１５年８月４日）

こうした危機感のもと、２００２年の国連総会において、平成１７（２００５）年から始まる１０年間を「国連ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）の１０年（国連ＤＥＳＤ）」とすることが決議され、ＥＳＤが世界各国のユネスコスクールを中心に推進されてきました。

この国連ＤＥＳＤは、その後継プログラムである「ＥＳＤに関するグローバル・アクション・プログラム（ＧＡＰ）」に引き継がれました。ＧＡＰにもあるように、「持続可能な開発」は、政治的合意、財政的な動機付け、技術的な手段のみによって実現できるものではなく、一人一人の考え方や行動の変容が求められます。この「変容」の実現に向けて、教育が果たすべき役割は大きいと言えます。

持続可能な社会づくりのためには、例えば冒頭に述べた課題とその原因について個別に考えるだけではなく、総合的な見方・考え方を身につける必要があります。また、グローバル化の進展に伴い、地球規模で物事を考える能力・態度が重要になってきます。

ＥＳＤは、こうした資質・能力を身につけ、具体的な行動により持続可能な社会づくりを実現する人材の育成を目標とした教育です。

②　ＥＳＤとは

先に述べたように、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ＥＳＤとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、さまざまな人々と力を合わせて身近なところから取り組む（think globally，act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、また、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまりＥＳＤは、

> 持続可能な社会づくりの担い手を育む教育

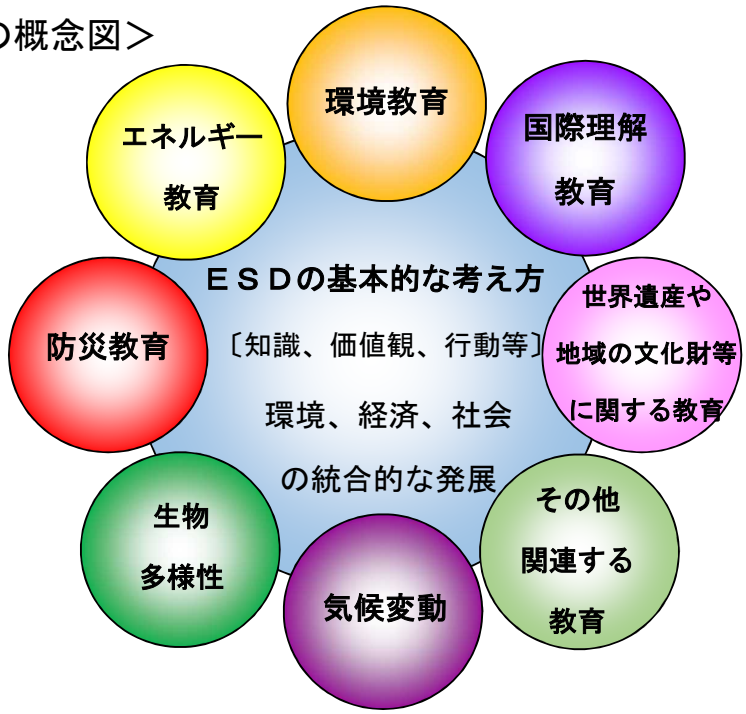
ということができます。

また、ＥＳＤの目標は、「国連ＤＥＳＤ」関係省庁連絡会議にて次のように設定されました。

> すべての人が質の高い教育の恩恵を享受し、また、持続可能な開発のために求められる原則、価値観、及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれ、環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすこと（「国連ＤＥＳＤ」関係省庁連絡会議　２００６年）

そのため、環境、平和や人権等のＥＳＤの対象となる課題の取り組みをベースにしつつ、環境、経済、社会、文化の各側面から学際的かつ総合的に取り組むことが重要とされています。

＜ＥＳＤの概念図＞



③ 学校におけるＥＳＤ（ＥＳＤの視点に立った学習指導）

１『学校における持続可能な発展のための教育（ＥＳＤ）に関する研究（最終報告書）』（国立教育政策研究所　２０１２年３月）より

これまで述べてきたことは、実践の場を学校教育に限定しているものではありません。ＮＰＯが中心となり、地域でＥＳＤを実践しているところもあります。

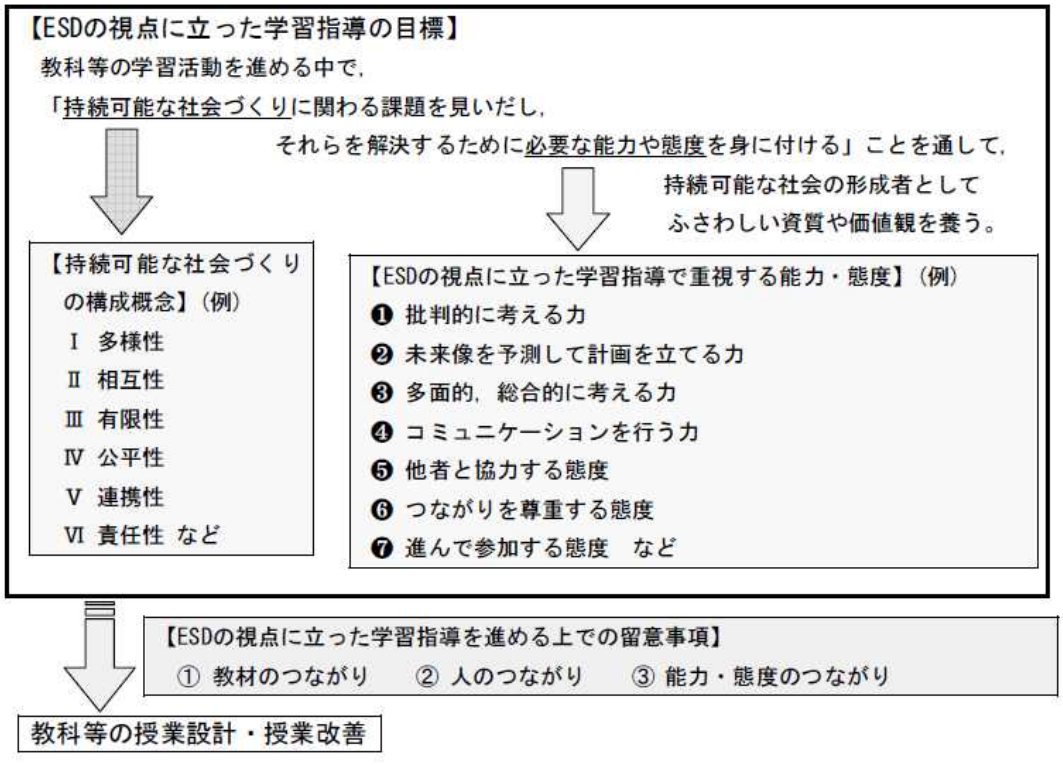
学校におけるＥＳＤの実践については、国立教育政策研究所が平成２０（２００８）年度から研究を始めました。これまでに、いくつかの研究報告が発刊されていますが、その最終的な報告書が平成２４（２０１２）年にまとめられました（以下『最終報告書』）。本校でも、これを基本として研究を進めています。

２　ＥＳＤの視点に立った学習指導の目標

『最終報告書』では、上記の「ＥＳＤの目標」をふまえつつ、次章で述べるように、「学校でＥＳＤを推進するためには、各教科等の授業の中でＥＳＤの視点に立った学習を展開する」ことを前提としたため、その目標を必要最小限に精選し、次にように設定しています。

> 持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力・態度を身に付けること

さらに、「各教科等の学習活動を進める中で、この目標の達成をねらいながら授業設計や授業改善を行うことが、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うことに資する」という考えに基づき、次のような「ＥＳＤの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」を提案しています。



３ 持続可能な社会づくりの構成概念（『最終報告書』表３）

上記「ＥＳＤの視点に立った学習指導の目標」にある「持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだす」には、「持続可能な社会とはどのような社会なのか・どのようなことが実現できている社会なのか」をとらえる必要があります。そのための要素を、『最終報告書』では、「持続可能な社会づくりの構成概念」として、次のように６点を例示しています。各教科または単元等の目標や学習内容（教材）をこれらの要素に基づいてとらえた上で授業を設計・実践することにより、ＥＳＤの視点に立った学習指導の展開が可能になるとの考えからです。

ただし、本校のこれまでの研究では、①この「構成概念」の内容自体への理解が難しいこと、②これを授業づくりに具体的にどう生かしていくのかが見えてこないこと、が課題となっています。

表３　「持続可能な社会づくり」の構成概念（例）

人を取り巻く環境（自然・文化・社会・経済など）に関する概念	Ⅰ 多様性 *いろいろある* 【多様】	自然・文化・社会・経済は，起源・性質・状態などが異なる多種多様な事物（ものごと）から成り立ち，それらの中では多種多様な現象（出来事）が起きていること。 自然・文化・社会・経済は，それぞれの形成過程で様々な様相を見せ，多種多様な事物・現象が存在している。そうした生態学的・文化的・社会的・経済的な多様性を尊重するとともに，自然・文化・社会・経済にかかわる事物・現象を多面的に見たり考えたりすることが大切である。 例）◆生物は，色，形，大きさなどに違いがあること ◆それぞれの地域には，地形や気象などに特色があること ◆体に必要な栄養素には，いろいろな種類があること
	Ⅱ 相互性 *関わり あっている* 【相互】	自然・文化・社会・経済は，互いに働き掛け合い，それらの中では物質やエネルギーが移動・循環したり，情報が伝達・流通したりしていること。 自然・文化・社会・経済は，それぞれが互いに働き掛けあうシステムであり，それらの中では物質やエネルギー等が移動・消費されたり循環したりしている。人は，そうしたシステムとのつながりを持ち，さらにその中で人と人とが互いにかかわり合っていることを認識することが大切である。 例）◆生物は，その周辺の環境とかかわって生きていること ◆電気は，光，音，熱などに変えることができること ◆食料の中には外国から輸入しているものがあること
	Ⅲ 有限性 *限りがある* 【有限】	自然・文化・社会・経済は，有限の環境要因や資源（物質やエネルギー）に支えられながら，不可逆的に変化していること。 自然・文化・社会・経済を成り立たせている環境要因や資源（物質やエネルギー）は有限である。こうした有限の物質やエネルギーを将来世代のために有効に使用していくことが求められる。また，有限の資源に支えられている社会の発展には限界があることを認識することも大切である。 例）◆物が水に溶ける量には限度があること ◆土地は，火山の噴火や地震によって変化すること ◆物や金銭の計画的な使い方を考えること
人（集団・地域・社会・国など）の意思や行動に関する概念	Ⅳ 公平性 *一人一人 大切に* 【公平】	持続可能な社会は，基本的な権利の保障や自然等からの恩恵の享受などが，地域や世代を渡って公平・公正・平等であることを基盤にしていること。 持続可能な社会の基盤は，一人一人の良好な生活や健康が保証・維持・増進されることである。そのためには，人権や生命が尊重され，他者を犠牲にすることなく，権利の保障や恩恵の享受が公平であることが必要であり，これらは地域や国を超え，世代を渡って保持されることが大切である。 例）◆健康でいられるような食事・運動・休養・睡眠などが保証されていること ◆自他の権利を大切にすること ◆差別をすることなく，公正・公平に努めること
	Ⅴ 連携性 *力を合わせて* 【連携】	持続可能な社会は，多様な主体が状況や相互関係などに応じて順応・調和し，互いに連携・協力することにより構築されること。 持続可能な社会の構築・維持は，多様な主体の連携・協力なくしては実現しない。意見の異なる場合や利害の対立する場合などにおいても，その状況にしたがって順応したり，寛容な態度で調和を図ったりしながら，互いに協力して問題を解決していくことが大切である。 例）◆地域の人々が協力して，災害の防止に努めていること ◆謙虚な心をもち，自分と異なる意見や立場を大切にすること ◆近隣の人々とのかかわりを考え，自分の生活を工夫すること
	Ⅵ 責任性 *責任を持って* 【責任】	持続可能な社会は，多様な主体が将来像に対する責任あるビジョンを持ち，それに向かって変容・変革することにより構築されること。 持続可能な社会を構築するためには，一人一人がその責任と義務を自覚し，他人任せにするのではなく，自ら進んで行動することが必要である。そのためには，現状を合理的・客観的に把握した上で意思決定し，望ましい将来像に対する責任あるビジョンを持つことが大切である。 例）◆我が国が国際社会の中で重要な役割を果たしてきたこと ◆働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働くこと ◆家庭で自分の分担する仕事ができること

注1）【】表記は，実践事例での略号　　注2）各欄の上段が構成概念の定義，下段がその補足説明

４　ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（『最終報告書』表６）

学校の教育活動において、指導者は「その学習活動を通して子どもたちにどのような力を身につけさせたいのか」をしっかり持って指導を行うことが重要です。それはＥＳＤでも同様であると考えます。『最終報告書』では、学校教育においてＥＳＤを推進するために、ＥＳＤで育みたい力として諸機関で様々に挙げられている能力・態度を「生きる力」と関連づけて整理し、キーコンピテンシーとも関連づけながら、次の７点を例示しています。さらに、教科等の指導において、単元（題材）の目標や授業の目標に、これらに基づいたものを付加したり関連づけたりすることを通して、ＥＳＤの視点に立った学習指導が展開できる、とも述べています。

ただ、示された「７つの能力・態度」では、各項目の内容やその細分化が小学校段階での学びと距離がありすぎ、具体的な指導内容や児童の姿がイメージしにくいことから、本校では、後述のように再構成を試みました。また、これらを生かして日常の授業を「ＥＳＤの視点に立った学習指導」にするために、「単元本来の『単元の目標』と『重視する能力・態度』を合体させて、ＥＳＤの視点に立った新たな単元の目標」を設定して授業を行っています。これについても後述します。

表６　ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）

ＥＳＤで重視する能力・態度		キー・コンピテンシー
❶ 批判的に考える力 《批判》	合理的，客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き，ものごとを思慮深く，建設的，協調的，代替的に思考・判断する力 例）○ 他者の意見や情報を，よく検討・理解して採り入れる。 × 得られたデータや考え方を鵜呑みにする。 ○ 積極的・発展的に，よりよい解決策を考える。 × 消極的，悲観的に考え，すぐに諦める。答えだけを得ようとする。	相互作用的に道具を用いる。
❷ 未来像を予測して計画を立てる力 《未来》	過去や現在に基づき，あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し，それを他者と共有しながら，ものごとを計画する力 例）○ 見通しや目的意識をもって計画を立てる。 × 無計画にものごとを進めたり，その場しのぎをしたりする。 ○ 他者がどのように受け取るかを想像しながら計画を立てる。 × 独り善がりにものごとを進めてしまう。	
❸ 多面的，総合的に考える力 《多面》	人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し，それらを多面的，総合的に考える力 例）○ 廃棄物も見方によっては資源になると捉えることができる。 × 役に立たないものは不要だと考える。 ○ 様々なものごとを関連付けて考える。 × まとまりがなく，きれぎれの見方をする。	
❹ コミュニケーションを行う力 《伝達》	自分の気持ちや考えを伝えるとともに，他者の気持ちや考えを尊重し，積極的にコミュニケーションを行う力 例）○ 自分の考えをまとめて簡潔に伝えられる。 × 他者の意見の欠点ばかりを指摘し，自分の考えを言わない。 ○ 自分の考えに，他者の意見を取り入れる。 × 他者の意見を聞こうとしない。	異質な集団で交流する。
❺ 他者と協力する態度 《協力》	他者の立場に立ち，他者の考えや行動に共感するとともに，他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度 例）○ 相手の立場を考えて行動する。 × 自分のことしか考えない。 ○ 仲間を励ましながらチームで活動する。 × 身勝手な行動，同調しない態度をとる。	
❻ つながりを尊重する態度 《関連》	人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち，それらを尊重し大切にしようとする態度 例）○ 自分が様々なものごととつながっていることに関心をもつ。 × 自分のすぐ回りのものや直接関係のあることしか関心がない。 ○ いろいろなもののお陰で自分がいることを実感する。 × 自分は一人で生きていると思い込む。	自律的に活動する。
❼ 進んで参加する態度 《参加》	集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち，自分の役割を踏まえた上で，ものごとに自主的・主体的に参加しようとする態度 例）○ 自分の言ったことに責任をもち，約束を守る。 × 無責任な行動ばかりで，きまりを守らない。 ○ 進んで他者のために行動する。 × 自分が得をすることしかしない。	

注）《》表記は，実践事例での略号

④ 白方小学校のＥＳＤ

本校は平成２５（２０１３）年９月にユネスコスクールへの加盟を承認され、平成２６（２０１４）年度より本格的にＥＳＤの研究に取り組んできました。

ここでは、これまでの研究内容を踏まえ、「ＥＳＤの日常的な実践」「『ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（『最終報告書』表６）』の再構成」「ＥＳＤカレンダーの作成と年間を見通した授業づくりへの活用」「『白方フェスタ』での発表」の４点にわたって示します。

１　ＥＳＤの日常的な実践

「ＥＳＤの日常的な実践」を研究主題に取り上げた経緯

本校は、次のような研究主題を掲げてＥＳＤの研究を進めてきました。

＜研究主題＞
地域に根ざし、持続可能な未来を切り拓く児童の育成～ＥＳＤの日常的な実践を通して～

平成２３（２０１１）年３月１１日の東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により、福島県内の学校の教育活動は、程度や期間の差こそあれ、制約を受けました。本校は、平成２６（２０１４）年の夏に校地内の全面除染が終了し、やっと正常な教育活動が可能になりました。

当時、厳しい状況の中、子どもたちは毎日元気に登校し、一生懸命に学習活動を続けていました。そのような中だからこそ、現状をしっかり見つめ、未来を切り拓くたくましい児童を育てたいと考え、ユネスコスクールへの加盟を目指しました。

合わせて、ＥＳＤの推進拠点となるユネスコスクールとして、これまでの教育活動をＥＳＤの視点から見直すとともに、制限された中でも日常的に実践できるＥＳＤのありかたを研究していくこととしました。

これまで述べてきた中にも、「各教科または単元等の目標や学習内容（教材）をこれらの要素（＝６つの構成概念）に基づいてとらえた上で授業を設計・実践することにより、ＥＳＤの視点に立った学習指導の展開が可能になる」「教科等の指導において、単元（題材）の目標や授業の目標に、これら（＝７つの能力・態度）に基づいたものを付加したり関連づけたりすることを通して、ＥＳＤの視点に立った学習指導が展開できる」（どちらも『最終報告書』より）とあるように、もとよりＥＳＤの視点に立った学習指導は、「各教科等の学習活動を進める中で、この目標の達成をねらいながら授業設計や授業改善を行うことが、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うことに資する」（『最終報告書』）という考え方で推進されるものです。

各教科等でつけるべき力とＥＳＤで育む力の双方を高めるために

前述したように、ＥＳＤの視点に立った学習指導を考えるとき、ＥＳＤに取り組む際の各教科等との関連等について、本校では次のようにとらえています。

① 各教科等の目標を達成するための学習活動を通して、ＥＳＤで育む力（「表６　ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）」）を育成する、という関係である。
② あくまで主たるものは「その教科等で達成すべき目標」であって、その目標を達成し、『学習指導要領』の理念である「生きる力」を育むための方法としてＥＳＤの考え方や手法が位置づけられる。
③ その結果として、児童に「持続可能な社会の構築」（「表３ 「持続可能な社会づくり」の構成概念（例）」）を担うために必要な資質や価値観を養うことをめざす。

また、本校は「全国学力・学習状況調査」等の結果の向上が課題の一つでもあり、各教科等でつけるべき力とＥＳＤで育む力の双方を高めることが必要でした。

そこで、本校では、日常の授業を「ＥＳＤの視点に立った学習指導」にするために、「授業が変わるとは『ねらい』が変わること」という考えに立ち、単元本来の「単元の目標」と「ＥＳＤで育む力」（「ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」）を合わせて、「ＥＳＤの視点に立った新たな単元の目標」を設定し、それを実現するための学習を意図的・計画的・日常的に実践していくことに取り組んでいます。

これにより、担任は、「ＥＳＤカレンダー」（後述）と合わせて、ＥＳＤと各教科等の指導の関連を授業レベルでイメージすることができるようになりました。

また、授業づくりの際に「その授業（単元）本来のねらいを達成させる方策」と「ＥＳＤの力を育む方策」を絡めて考えることで、二つの方策が互いに補完し合い、互いの効果を高めていくことにつながることもわかってきました。

２　ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（『最終報告書』表６）の再構成

前述したように、『最終報告書』で示された「ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」では、各項目の内容やその細分化が小学校段階での学びと距離がありすぎ、具体的な指導内容や児童の姿がイメージしにくいと考えました。また、ＥＳＤの視点に立った学習指導のデザインにあたっては、私達は『学習指導要領』の理念が「生きる力」の育成であり、そのために「生きる力」と「ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」（最終報告書）の関連を自覚的に踏まえることが必要です。

そこで本校では、次頁のような再構成を試みました。ただし、このような読み替えやカテゴリー分けは適切か、「生きる力」との関連は適切なのかなど、今後の課題とすべき点も多くあると考えています。

白方小学校のＥＳＤの視点に立った学習指導で育む能力・態度

「生きる力」との関連	白方小のＥＳＤで育む４つの能力・態度			『最終報告書』「７つの能力・態度」との関連
〔知〕 ○思考力 ○判断力 ○課題発見能力 ○問題解決能力	多様な観点と見通し	多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力	・ さまざまなものごとを多面的に見つめ、それをほかの分野や自分の知識・経験などと関連づけて総合的にとらえ、批判的に考えて判断する力 ・ 見通しを持って、よりよい解決策を積極的に考える力	① 批判的に考える力 ③ 多面的、総合的に考える力
〔知〕 ○表現力 〔徳〕 ○協調性 ○感動する心	交流と協力	気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度	・ 自分の考えを持つとともに、それを他者にしっかり伝えて、協力して実行する態度 ・ 相手の立場を尊重しながら、自分の気持ちや考えを伝え、積極的にコミュニケーションを行う態度	④ コミュニケーションを行う力 ⑤ 他者と協力する態度
〔徳〕 ○協調性 ○感動する心	つながり	さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度	・ 自分と人・社会・自然などとのつながりに関心を持ち、尊重するとともに大切にしようとする態度	⑥ つながりを尊重する態度
〔知〕 ○判断力 〔徳〕 ○自律心	主体的・計画的	よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度	・ よりよい未来を思い描きながら、その未来を実現するために必要なことに進んで計画的に取り組む態度 ・ 学んだことをもとに自分の生活を振り返り、よりよい生き方を考えようとする態度	② 未来像を予測して計画を立てる力 ⑦ 進んで参加する態度

＜生きる力＞・・・知・徳・体のバランスのとれた力

確かな学力〔知〕：基礎・基本を確実に身に付け、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

○思考力　○判断力　○表現力　○課題発見能力　○問題解決能力

豊かな人間性〔徳〕：自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心

○協調性　○自律心　○感動する心

健康・体力〔体〕：たくましく生きるための健康や体力

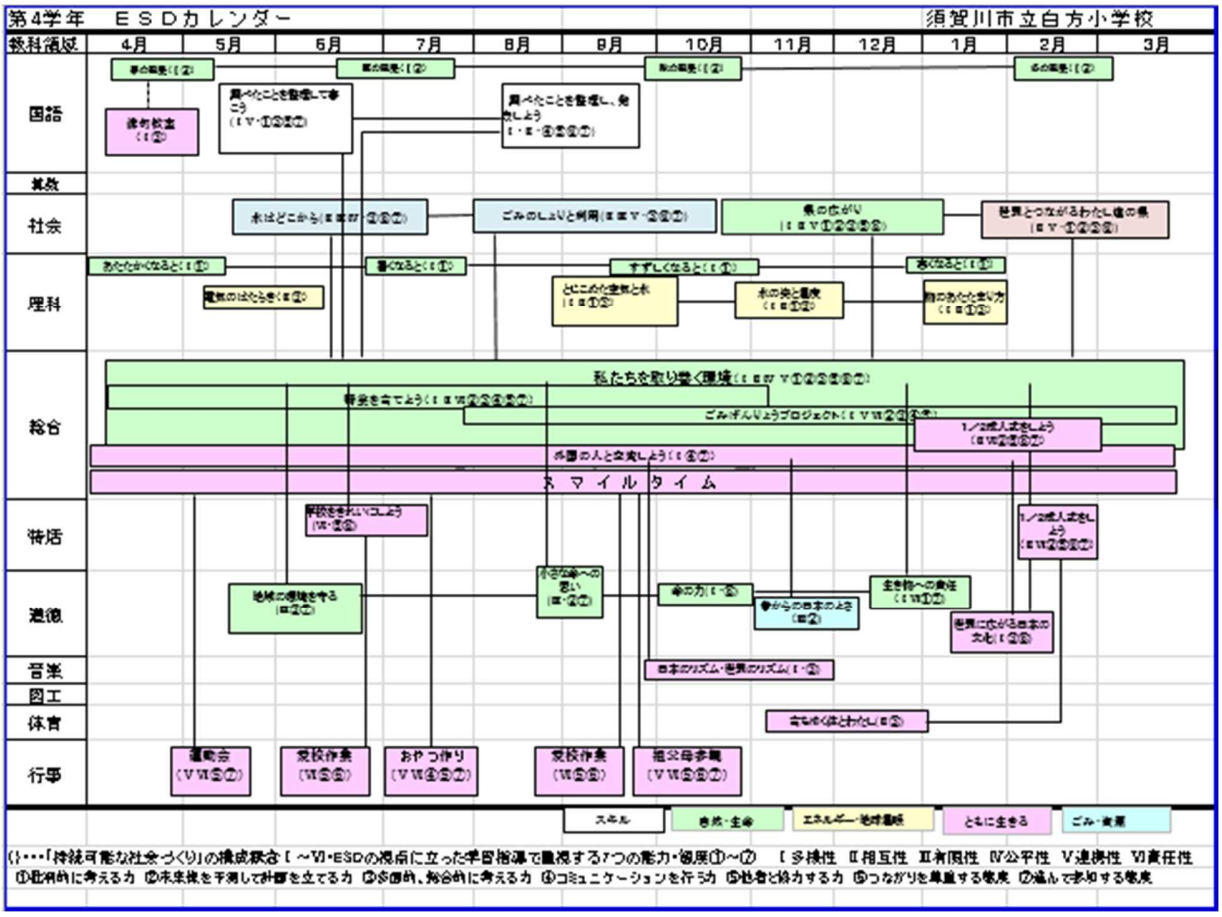
○運動に親しむ　○健やかな体

３　ＥＳＤカレンダーの作成と年間を見通した授業づくりへの活用

「ＥＳＤカレンダー」は、ユネスコスクールの先進校である江東区立東雲小学校で開発され、「教科横断的な学習の進め方」を「見える化」した年間指導計画です。本校でも、ＥＳＤを日々の授業の中で日常的に実践するために、江東区立八名川小学校のものを参考にさせていただいて作成しました。

これにより、ひと目で、いつの時期に、どのような視点を持って、どのような学びを、どのような教科・領域と関連付けて取り組むのかが、だれにでも分かる年間指導計画にすることができました。

本校では、ＥＳＤカレンダーの作成作業を通じて、教科・領域間の関連について担任が意識を持つことがまず重要であると考えています。さらに、具体的な児童の姿をイメージして指導の工夫を行い、どのようにつなげていったら児童の実践的な態度に結びつくのか、実践を重ねながら修正していくことが必要であると考えます。



４「白方フェスタ」での発表

本校では、各学年の学びと６年間を通しての学びが児童にとってストーリー性のある問題解決的なものとなるよう、次のようにテーマを設定しています。設定にあたっては、担任や児童の課題意識を生かすことができるよう、ある程度大きな内容にしています。

ただ、これらのテーマによるＥＳＤの学習は始めたばかりです。学校や地域の実態に合い特色を生かした学習ができるか、児童の発達段階に合っているか、ＥＳＤやＥＳＤの視点に立った学習指導の目標を達成できるものになっているか、など、実践を通して検討すべき点が多くあると考えています。

１学年：「見つけよう　知らせよう　いろいろなひみつ」（学校のもの・ひと・こと）
２学年：「見つけよう　知らせよう　いろいろなひみつ」（学校のまわりと自分自身）
３学年：「白方のよさを見つけよう」（白方と須賀川市に目を向けて）
４学年：「私達を取り巻く環境」（岩瀬から県へ）
５学年：「私達の生活と環境」（国とのつながり）
６学年：「白方から世界へ」（環境・歴史・平和・伝統文化）

また、本校では１０月に「祖父母参観」という、保護者・祖父母・地域の方々・学校の教育活動にご協力をいただいている方々をお呼びしての大きな行事を毎年行っています。この中に、「白方フェスタ」という児童の発表の場を設け、ＥＳＤで学んだことを発信（発表や中間発表）しています。

担任は、これを見据えたうえで、生活科や総合的な学習の時間を中心にテーマに基づいた長期的な学びをデザインします。児童は、「白方フェスタでの発表」ということも一つの目標としつつ、ＥＳＤの学習を進め、主体的な学習態度や表現力・プレゼンテーション力を身につけていきます。



平成２９年度　研究の全体構想

今日的な課題
- 生きる力
- 豊かな人間性や社会性
- 確かな学力
- 自ら学び自ら考える力の育成
- 社会の変化に対応できる力

学校教育目標
心身ともに健康で、総合的な学力を身につけた白方の子どもの育成
○　すすんで学習する子ども
○　思いやりのある子ども
○　明るく元気でたくましい子ども

ＥＳＤのねらい
- 批判的に思考・判断する
- 未来を予測して計画を立てる力
- 多面的・総合的に考える力
- コミュニケーション力

研究主題

地域に根ざし、持続可能な未来を切り拓く児童の育成

～ＥＳＤの日常的な実践を通して～

目指す児童像と能力・態度
- 少し先の未来を思い描きながら、多様な観点から考え、よりよい解決策を見いだすために自主的に活動する児童
- 自分の考えや思いを、相手に合わせて表現したり伝えたりして、協力して取り組む児童
- お互いを認め尊重し合い、自分と周りの人やものとのつながりを大切にして、よりよい未来のために行動する児童

研究の見通し１

教育活動全般で、つながりを意識して教育活動を展開していけば、ＥＳＤの見方・考え方を育てることができるであろう。

研究の見通し２

学習の各段階で、伝え合う活動や話し合い活動を意図的に行えば、表現力が向上し、自ら発信したり、行動したりする力を育てることができるであろう。

手だて１　学びをつなぐ
- 教科・教材のつながりを意識して，単元の構想を練る。→ＥＳＤカレンダーの活用
- 前に学習したことや生活体験と結びつけて考えさせる。

手だて２　対象の物・人・こととつなぐ
- 体験活動を意図的・効果的に組み入れる
  →目的意識・ふりかえり活動
  →表現する場の設定と伝え合い

手だて３　「課題設定・調べる・まとめる・発信する」各段階での対話や話し合い活動の設定の工夫
- 「考えながら表現し、表現しながら考える」活動の重視
- 伝え合い、話し合いの場の意図的な設定
- 相手を意識した伝え方・発表の仕方の工夫

＜平成２９年度の研究について＞

１　昨年までの研究の成果と課題

「ＥＳＤの視点に立った学習指導」への理解と日常的な実践に向けた授業作りが進んだこと

○　第１段階として、まず児童の「持続可能な社会作りのための課題設定」が必要であり、十分な時間をかけることが重要である。

○　その単元でつけるべき「教科等の本来の力」と「ＥＳＤで育む力」を合わせて「ＥＳＤの視点に立った新たな単元の目標」を設定して授業作りを行うことにより、日常的な実践につなげることができる。

○　指導案の中に「持続可能な社会作りとの関連」という項目を入れることにより、本単元の学習内容とＥＳＤの関わりを担任がどうとらえ、授業をデザインしているかを表現することとした。

●　児童のＥＳＤの学びを確かに見取り、担任の負担が少ない評価の方法はどのようなものか。

②　「白方フェスタ」などの表現する場と機会を設定することにより、「白方小のＥＳＤで育む４つの能力・態度」が身についたこと

○　発表をきく相手を意識し、どのようなメッセージを伝えたいのか、それはどのような表現方法を使えばよいのかを考え、工夫する学習を通して、　「白方小のＥＳＤで育む４つの能力・態度」が身についた。

●　外国の学校と交流を行う場合、言葉の壁だけでなく、ＥＳＤへの温度差や学習のねらいの相違等、学習がスムーズに進まない原因となるものが多いことが分かった。

③　授業以外でも児童の活動が広がったこと

○　児童会各委員会の活動　　○　白方サイエンスクラブの発足

○　全校生による愛校活動　　○　宿泊活動での子どもたちの姿

２　今年度の取り組みについて

研究主題

地域に根ざし、持続可能な未来を切り拓く児童の育成

～ＥＳＤの日常的な実践を通して～

研究の見通し１

教育活動全般で、つながりを意識して教育活動を展開していけば、ＥＳＤの見方・考え方を育てることができるであろう。

実現のための手立て

①　「つなぐ」ことを意識した学習指導や日常的な活動

○　「学び」をつなぐ

他教科や行事とのつながり（ＥＳＤカレンダーの活用）や既習事項とのつながりを明確にし、指導の構想を練る。

○　「対象の物・人・こと」とつなぐ

体験活動を効果的・計画的に組み入れ、目的意識（何のために、何を、どうやって）を持たせて体験活動に主体的に関わらせたり、事後の振り返り（何が分かったのか、それがどうつながるのかなど）をしっかりさせたりする。

研究の見通し２

学習の各段階で、伝え合う活動や話し合い活動を意図的に行えば、表現力が向上し、自ら発信したり、行動したりする力を育てることができるであろう。

実現のための手立て

② 「課題設定・調べる・まとめる・発信する」の各段階での対話や話し合い活動の設定の工夫

○ 自分で考え、まとめたことを表現するだけでなく、相手の発言を聞き、答えたりそれに対しての自分の考えを話したりすることを行わせる。→「考えながら表現し、表現しながら考える」活動の重視

○ ペア、グループ、全体などの形態を工夫し、自分の考えを表現することや友達の考えを聞いて自分の考えと比べること、自分の考えを広げたり修正したりすることを日常的に行う。

○ 相手意識を持たせ、話す相手や発表を聞いてもらう相手に伝わる伝え方や発表の仕方を工夫させる。

（2）白方小学校のＥＳＤの視点に立った学習指導で育む能力・態度

「生きる力」との関連	白方小のＥＳＤで育む４つの能力・態度			『最終報告書』「７つの能力・態度」との関連
〔知〕 ○思考力 ○判断力 ○課題発見能力 ○問題解決能力	多様な観点と見通し	多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力	・ さまざまなものごとを多面的に見つめ、それをほかの分野や自分の知識・経験などと関連づけて総合的にとらえ、批判的に考えて判断する力 ・ 見通しを持って、よりよい解決策を積極的に考える力	① 批判的に考える力 ③ 多面的､総合的に考える力
〔知〕 ○表現力 〔徳〕 ○協調性 ○感動する心	交流と協力	気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度	・ 自分の考えを持つとともに、それを他者にしっかり伝えて、協力して実行する態度 ・ 相手の立場を尊重しながら、自分の気持ちや考えを伝え、積極的にコミュニケーションを行う態度	④ コミュニケーションを行う力 ⑤ 他者と協力する態度
〔徳〕 ○協調性 ○感動する心	つながり	さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度	・ 自分と人・社会・自然などとのつながりに関心を持ち、尊重するとともに大切にしようとする態度	⑥ つながりを尊重する態度
〔知〕 ○判断力 〔徳〕 ○自律心	主体的･計画的	よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的･計画的に取り組む態度	・ よりよい未来を思い描きながら、その未来を実現するために必要なことに進んで計画的に取り組む態度 ・ 学んだことをもとに自分の生活を振り返り、よりよい生き方を考えようとする態度	② 未来像を予測して計画を立てる力 ⑦ 進んで参加する態度

＜生きる力＞・・・知・徳・体のバランスのとれた力

確かな学力〔知〕：基礎・基本を確実に身に付け、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

○思考力　○判断力　○表現力　○課題発見能力　○問題解決能力

豊かな人間性〔徳〕：自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心

○協調性　○自律心　○感動する心

健康・体力〔体〕：たくましく生きるための健康や体力

〇運動に親しむ　〇健やかな体

（３）指導案の形式について

第〇学年　ESD（〇〇科）学習指導案

1　単元（題材）名

2　児童の実態

3　ESD の視点に立った学習指導について

(1)　教材について

教科・領域のねらいや、それに関わる児童の活動について記述している。

(2)　持続可能な社会づくりとの関連

本単元の学習内容とＥＳＤの構成概念との関わりを担任がどうとらえ、授業をデザインしているかを記述している。

これは、「持続可能な社会作りの構成概念」のうち、「Ⅰ多様性」「Ⅱ相互性」「Ⅴ連携性」に当たると考えている。

「持続可能な社会作りの構成概念」６つ
Ⅰ多様性　Ⅱ相互性　Ⅲ有限性　Ⅳ公平性　Ⅴ連携性　Ⅵ責任性

(3)　本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

＜さまざまな人や社会、自然などのつながりを尊重する態度＞

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて、主体的・計画的に取り組む態度＞

「白方小学校版　ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力･態度」（Ｐ１０参照）を本単元の児童の具体的な姿で記述し、それらの能力・態度を育てるための手立てを記述している。

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。

①

4　単元の目標

春からの町探検をふりかえり、自分の心に残った地域のひみつを伝えたいという思いを持ち表現する方法を考えたりまとめたりする活動を通して、地域の良さや身近な人々と関わる楽しさがわかり、進んで交流することができる。

「白方小学校版　ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力･態度」に関わり、本来の単元の目標に加えて新たに設定した部分に下線を引いている。

「白方小学校版　ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力･態度」に関わる評価規準に下線を引いている。

5　指導計画と評価規準（総時数　１０時間）

本単元に関わる前単元名	関心・意欲・態度	思考.表現	気づき

次	時	学　習　活　動	関心・意欲・態度	思考.表現	気づき
1	1 2	春からの町探検を作品や写真などから振り返り、伝える相手と伝えたいことを決める。	春からの町探検を振り返り、自分の心に残った地域の出来事を友達と伝え合っている。	地域での活動を通して、自分の心に残った地域の出来事を振り返り、伝える相手を考えて、伝えたいことを決めている。＜つながり＞ ＜主体的･計画的＞	

6　ねらい

自分の作品を使って、見つけたまちのひみつを伝え、地域の良さを知ってもらう楽しさや周りの人と関わることの楽しさに気づくことができる。

「白方小学校版　ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力･態度」に関わり、新たに設定したねらいの部分に下線を引いている。

なお、「総合的な学習の時間」の授業案については、そのねらいや内容が「ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力･態度」と重なる部分が多いため、「単元の目標」「指導計画」「（本時の）ねらい」等に下線を引いていない。

7　指導過程

過程	学習内容・活動	時間	○指導上の留意点　＊ＥＳＤの視点に立った留意点 ・評価＜ＥＳＤで重視する能力・態度＞
導入 活動 振り返り	1　本時のめあてをつかむ。 まちのひみつをつたえよう。 2 3 (1) 4　振り返りをする。	7	○授業を参観している人たちについて説明し、白方のことを知らない人がほとんどであることを知らせ、白方のことを知らない人に白方のひみつを伝えるという相手意識を持たせる。 ＊何人の人に伝えるか、どのように伝えるかを考えさせ自分で決めさせることにより、自分で目標を設定させる。 ＜主体的・計画的＞

「＊ＥＳＤの視点に立った留意点」を明示するための表記

本校では、本来の「ねらい」が定まっている各教科等においてＥＳＤの視点に立った学習指導を進める場合、次のような手順で「学習指導案」を作成していく。

1　その単元で児童に身につけさせたい「ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力･態度」を決める。それは、学年のテーマとの関連で、４項目（白方小学校版）全てでも構わないし、重点として絞っても構わない。検討に際しては、単元の学習内容はもとより、ＥＳＤカレンダーで他教科等・他単元との関連を確認する。
2　その教科等や単元本来の優先すべき「単元のねらい」と「ＥＳＤの視点に立った学習指導
3　本時の授業のデザインに際しては、本単元で児童に身につけさせたいとして設定した「ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力･態度」のうち、本時の授業で扱うものを決め、その能力・態度を育てるための効果的な方策を工夫する。

（４）　ＥＳＤカレンダーと単元構想計画の作成について

各学年で、各教科や行事とのつながりを考え、ＥＳＤカレンダーを作成する。ＥＳＤカレンダーは、適宜修正を行いながら活用する。また、主幹となる生活科、総合的な学習の時間の単元の構想を練り、年間を見通した指導ができるようにしていく。